

(3) 自分の役割を自覚して

考えよう 私たちの役割と責任

私たちは、学校や家族をはじめとする様々な集団の中にいる。

一人一人がその中で大切にされ、自分の良さを発揮しながら役割を果たしていくためには、どのようなすればよいのだろうか。



学校の中で



家族の中で

集団の中にはどのような役割があるのだろうか

私たちは、様々な集団で、それぞれ役割をもって活動しています。どのような役割があるのか、ふり返ってみましょう。また、その役割はなぜ必要なのでしょうか、役割の大切さについても考えてみましょう。

集団 ● 学級では
役割 ● 学級会の司会

学級会の話し合いのときには、司会をして、話し合いをまとめる。

集団 ● 家庭では
役割 ● ふろそうじ

家族が気持ち良く入浴できるように、ふろをそうじする。

例えば……

集団 ● 学校では
役割 ● 図書委員会の委員

昼休みと放課後に本の貸し出しをする。

集団 ● 地域では
役割 ● 子供会の副会長

子供会の行事が楽しくできるよう、会長と一緒に会をまとめる。

				集 団
				役 割

●あなたはどのような集団で、どのような役割を果たしていますか。



給食当番



クラブ活動



委員会活動



スポーツチーム

集団の中で自分の役割と責任を果たす

様々な集団の中にいる私。たくさんの人と関わりながら、協力して過ごす毎日。一人ではできないことも、みんなで力を合わせればできることがある。集団の目標に向かって、自分の役割と責任を果たしていくことで、楽しさや喜びを感じることがある。

集団の中での自分の役割を考えてみよう。

6年

5年

●あなたが所属する集団をより良いものにしていくために、あなたがすべきことは何でしょう。



例えば学芸会の演劇で、演じる人と同じようにかかやいているのは、舞台に向けて照明を当てるAさんであり、音楽をタイミングよく流すBさん。

だれか一人でもいなければ、この劇は成り立たない。

どのような役割でも、その役割がなければ成り立たない

効果音係 ▶



▲ 照明係



▲ 役者



▲ 大道具係



▲ 小道具係



▶ 進行係



定吉はもう、動けなかった。うすれてゆく意識の中で、江戸の町を歩き来する人々の足音だけが聞こえている。

小川 笙船
（二六七―二七六〇）

定吉には、家族はいない。一人、長屋に住み、魚売りで生計を立てていた。しかし、病をわずらい仕事ができなくなった。家賃がはらえず、長屋を出された。ねる場所も、食べる物もなく、道にたおれた。すっかりやせ細り、よごれた身なりで苦しんでいる定吉に声をかける者はいなかった。

しばらくすると、定吉の手を取り、脈を確かめ、

「しっかりしろ。」

と声をかけた男がいた。その男は連れもの者に、定吉を背負うように言った。

定吉は、となりにねている男のうなり声や、薬をゴリゴリと調合する音で目が覚めた。（しんりょう所か……、助かったのだ……）なみだがこみ上げてくる。しかし、次の瞬間、定吉はここからこつそりとぬけ出すことを考えた。金がないのだ。だが、にげ出す力はもつとない。そこへ、さっきの男が現れた。

「気付いたか。良かった。しばらく、ここで養生して病を治すんだな。」
おだやかな声が、定吉の胸にひびく。でも定吉は、

養生
病気の手当をし、回復（かいふく）に努めること。

「ふん、おいらは病気……なんかじゃねえ。たのみもしないことを……してくれやがった。」

と、とぎれとぎれの声で、息巻いた。男は、定吉の顔をしばらく見た。

「金の心配なら、しなくていい。」

そう言って、脈をとるために、再び定吉の手を取った。ごつごつと大きな強い手が定吉の手を包むと、定吉は静かに目を閉じた。定吉の目からあふれるなみだは、ほおを伝わり、首をぬらしていた。

「ゆっくりと休むことだ。」

そう言うと、男は部屋を出て行った。

男の名は小川笙船。江戸の町でも有名なうでの良い医者だった。身分の高い者たちは、高いしんりょう代を余計に包み、もてなし、笙船を大事にしていた。そのような者たちだけをしんりょうしても十分に豊かな暮らしをしていける。それでも笙船は、貧しく医者にかかる金もない者にも手厚くしんりょうをほどこした。江戸の町には、定吉のような家も身よりも金もない病人がたくさんいたのだ。助かる者はいい。手当てをしても、死んでいく者も多く、笙船は胸を痛めていた。





そのころ江戸では、貧しい病人は、笹船のしんりよ
う所では受け入れられないほどの数になっていた。笹
船は、殿様にこの事実を伝え、ついに、殿様の命令で
貧しい者たちが安心してみてもらえる小石川養生所が
つくられた。そして、笹船はそこを取り仕切ることに
なった。養生所は何百人もの患者であふれ返った。自
分と同じ志のある若い医者や養生所に呼び寄せ、治療
の仕方を実際にやって見せて学ばせた。多くの病人の
診察や、若い医者たちへの指導で、笹船は目が回るよ
うな毎日であった。

しかし、どんなにつかれていても、夜には若い医者
に任せられた治療がまちがっていないか確認した。そして、
若い医者たちのなやみや疑問が書かれた日誌に夜おそ
くまで目を通し、一人一人に声をかけ、いたわった。
一方で医者としての姿は厳しく示したのである。

こうして、志ある医者や薬となる薬草を育て
ながら、定吉にしたように手厚く、貧しい病人の面倒
を見た。

はらう金もなかった定吉は、養生所の井戸から水を
くむ仕事をして、笹船への恩返しをしていた。

ある日、水をくんでいると、あの日、となりでねていた男が、自分の畑で採れたたくさんの
大根を養生所に届けに来た。この男もいまだに金をはらえずにいた。

「先生、先生はおられるかあ。先生に食べてもらおうじゃー！」

男は、すっかり元気になっていた。土だらけの手で背負っていたかごを下ろし、笹船の姿を
見つけると、日に焼けた顔は満面の笑顔になった。

笹船もまた、うれしそうだった。笹船は男とかごに手を合わせた。
そして、大根のかごを受け取り高々とかけると、養生所にはみんな
の笑顔と拍手の音が広がった。

笹船のおかげでできた養生所はその役割を終え、現在は小石川植物
園となっている。植物園の中には、笹船や貧しい江戸の町人のたくさ
んの思いと共に、今も、井戸がひっそりとねむっている。



小石川植物園に残る養生所の井戸

集団における役割と責任

みんなの中で君がかがやく

君は、食事の後片付けなどの手伝いをして、家族の役に立つことをしているかな。

君は、学級の係の仕事などを進んでやったり、授業でよく友達を助けたりしているかな。

君はまた、みんなの事を思ってボランティア活動をしたことがあるかな。

さて、君がみんなのために役立とうとするには、どんなことに気を付ければ良いだろうか。四つほどの場面で考えてみよう。

第一は、グループや学級などの全体の問題を、みんなで解決していこうとするときだ。そんなとき、うまくいくと、一人ではとても思いつかぬことを考えついたりするね。「三人寄れば文殊の知恵」と言うだろう。君もこんなときは、のびのび、どしどし、考えを出そう。出しおしめはいけないよ。

第二は、グループや学級で、いろんな意見や考え方があって、討議をするときだ。そのときは、だまっているのが一番いけない。もっと良い方法がないかと真剣に考えてみよう。まず、自分の考えをしっかりとつ。そして、たとえみんなとちがっていても、ひるまずに、みんなによく

分かるように言ってみる。しかし、その一方では、他の人の考えに耳をよくかたむける。自分の考えがまちがっていると気付いたらすぐ改める。また、少数意見を大切にしながら、いろんな考えや対立する考えをまとめることはできないか、と努力してみよう。

第三は、勉強や仕事のこと、困っている友達がいるときだ。困っていた君が、友達から助けてもらったこともあるだろう。そんなときのうれしさは、忘れられないものだ。「まさかのときの友達が、本当の友達」ということわざもある。友達をライバル（競争相手）とだけ思っていたら、それは大変なまちがいなんだ。友達が困っていたら、君から声をかけるようにしよう。

第四は、みんなで仕事を分担してやるときだ。例えば、学級会や児童会やいろんな行事の委員・係、あるいは、授業での学習や作業などのグループ活動では、それぞれが仕事を分けもつて、その責任を果たしていくだろう。こんなとき君は、どんな関わり方をしてきたかな。進んでやってきたか、しりごみしてきたか。

はなやかな、楽な仕事はだれでも受けもとうとする。しかし、目立たない仕事をコツコツやる人。失敗しても、にげないで、責任を堂々ととる人。そして、受けもつた仕事を一生懸命やることに喜びを感じる人。そういう「みんなのために働く」人があって初めて、大きな仕事ができ、みんなが幸せに暮らすことができるんだ。

周りのみんなに君がどう役立って行くか。この関わり方は難しいが、それが君のこれからの一生とさえ言える。だから、このために、喜んだり、悲しんだり、苦しんだりもするだろう。しかし、覚えておいてほしい。自分の考えをしっかりとつ。みんなの中で自分を失うことなく、みんなに役立ってこそ、君は、たくましく、大きく成長するのだ、と。

(4) 公共のために役立つことを

「働く」と「働く」と



てんびん棒(ぼう)をかつぎ、全国へ行商した近江商人

その昔、全国各地を旅しながら、いろいろな商いをする近江（今の滋賀県）の人たちがいました。かれらは商売を通して、自分も、相手も、その地域社会も豊かにしていったのです。その考え方は「三方良し」という言葉で伝えられています。

近江商人とは、主に鎌倉から昭和時代に活動した近江出身の商人のことです。かれらは、「売り手良し、買い手良し、世間良し」という「三方良し」の理念のもと、地域社会の発展にもこうけんしてきました。

その成功のうらには、すぐれた商才だけでなく、代々伝えられ守られてきた規律や道徳を重んじる心があったのです。



● 自分がなりたい職業を例に、「三方良し」の意味について考えてみましょう。

なりたい職業

自分も良い

相手も良い

社会も良い

5年

なりたい職業

自分も良い

相手も良い

社会も良い

6年



学校周辺のごみ拾い



町内会の清掃(せいそう)活動



海に流出した重油を取り除(のぞ)く

話し合ってみよう

自分にできるボランティア活動

● 私たちは地域や社会のために何ができるのでしょうか。

できること・したこと

活動してみた感想



社会のために力をつくす

平成二十三年(二〇一一年)三月十一日、東日本大震災が発生した。この震災の被害にあった地域の復旧活動や人々の救護活動のために、地方公共団体、自衛隊、警察、消防、海上保安庁などから多数の職員や医療スタッフが派遣された。また、世界の多くの国や地域、国際機関などから、大きな支援が寄せられた。さらに、国内外から多くのボランティアが参加した。

さらに、国内外から多くのボランティアが参加した。



困難な状況の中、活動に当たった人たちは、どのような思いで救助や救出などに力をつくしたのだろうか。それを支えていたものは何だったのだろうか。



弟が生まれてお姉ちゃんに
かわいがってくれたね。



生まれてきてくれてあり
がとう。元気に育ってね。



しっかりと勉強してね。
友達たくさんできるかな。



元氣いっぱい。
水遊びが大好きだったね。



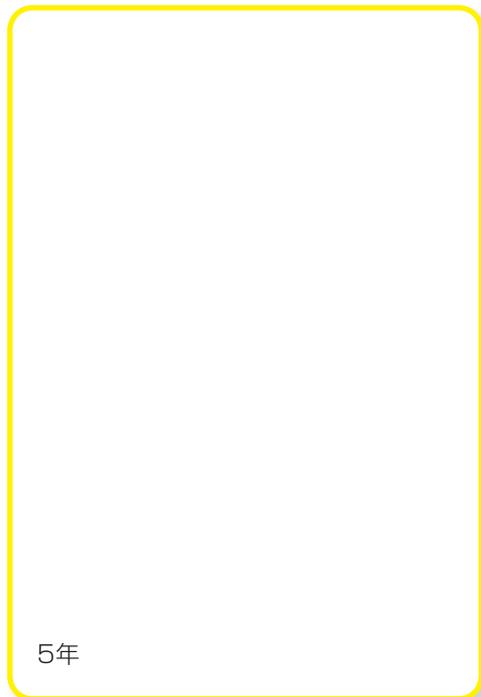
いつもお手伝いありがと
う。とても助かっているよ。



雪遊び、楽しかったね。



6年



5年

●家族っていいなと思うのはどのようなときで
しょう。

どんなときも
私を信じてくれている。
どこにいても
私の心を支えてくれる。
私の家族。
大切な家族のために
私は何ができるのだろう。



家族に見守られて成長してきた私^{わたし}

(5) 家族の幸せを求めて

人生最大の幸福は 一家の和楽である

野口英世
(医学者)

楽しみは 妻子むつまじく うちつどひ
頭ならべて 物をくふ時

橘曙覧
(歌人)

銀も 金も玉も 何せむに
まされる宝 子にしかめやも

山上憶良
(歌人)

大切な家族を思って…



ときには
「うるさいなあ」と思うこともある家族の存在。
でも、これからも
かけがえのない自分の居場所であり続ける家庭。
大切な家族とのきずなをより強いものにし
家族みんながもっと幸せになるように
私にできることがきつとあるはず。

家事の当番はこんな
ふうにしたけれど、
みんなはどっかな。

私にだって持てるよ。

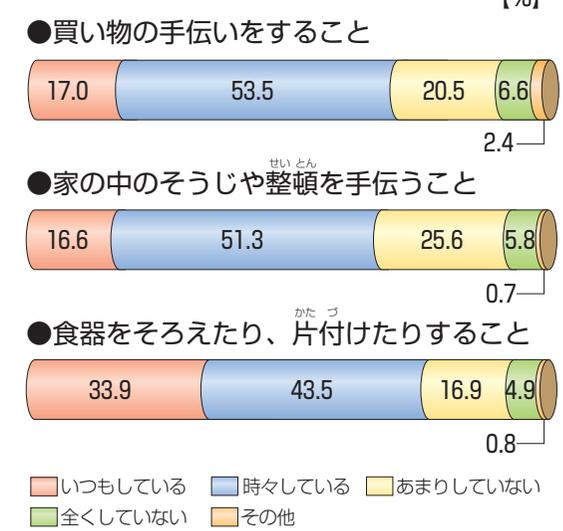
ぼくは、この前の土曜日に、家のニュースを新聞にまとめてみた。それは、ぼくが四年生のとき、初めて「としくん家新聞」を作ったら、それを見た父が、とび上がって「おお、これを読むとつかれが飛ぶぞお。」と喜んでくれたことを思い出したからだ。

父は、「このごろ仕事の帰りがおそく、よく「つかれた。」と言っているけれど、今度の新聞も「本当に元氣の出る薬だなあ。」と「いいこと」していた。

この次は、家族の声を集めて書くコーナーも作ってみたいと思う。

(児童作文)

■ あなたは家で家族の手伝いをしていますか。(小学5年生) [%]



国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」(平成22年度実施)

私の役割

家族へのメッセージ

6年

私の役割

家族へのメッセージ

5年

● 家族の一員としての役割と家族へのメッセージを書きましょう。



楽しい遠足

クラスが一つになった運動会



おいしい給食

仲間と共に
学び合う中で
生涯の支えとなる
すばらしい
思い出をつくらう。

教え導いて
くださる先生。
支え合い、
助け合う
たくさんの
仲間たち。



本の読み聞かせ



たくさんの友達

(6) より良い校風を求めて

● 自分の学校について考えてみましょう。

この学校の自慢

この学校の好きな所

こんな学校にしたい

学校坂道 作詞 西口ゆうこ

この坂道のぼったら ぼくの学校があります
 ジャングルジムにのぼれば海が
 まっさおに見えます
 青空に抱かれた ぼくの自慢の学校
 この坂道をぼくは毎朝
 風をきってかけます

この坂道おるのは 空が赤く燃える頃
 丘を渡る澄んだ空気 うしろに長い影
 ともたちの笑顔も 夕焼けに染まります
 この坂道をぼくはあしたも
 口笛とのぼります

この坂道をぼくはあしたも
 口笛とのぼります

校風をつくるのは私たち

● あなたの学校にはどのような校風がありますか。

「仲良しN小、元気良し！」これが私たちの学校の合い言葉です。同じクラスや学年はもちろん、学校中がとても仲良しです。

それは、縦割り班などで活動することがとても多いことや、六年生が下級生の面倒を見たり教えたりする仕事がたくさんあるからだと思います。

月に一度は縦割り班で遊ぶ日があるし、学期に二回は縦割り集会で班対抗のゲームなどをしてとても盛り上がります。縦割り遊びの日でなくても、よく一緒に遊びました。

月ごとの誕生日給食はランチルームでいろいろな学年の人と一緒に楽しく会食します。

一年生に朝の準備の仕方を教えたり、朝読書の読み聞かせをしたりすることもあります。

初めは、「面倒くさいなあ」と思ったり、言うことを聞かない下級生がいるといやになったりすることもありました。でも、やっているうちに、私も昔は六年生のお世話になったことをだんだんと思い出してきました。

今では、行事のときにも大声で名前を呼んで応援してくれる下級生がとてもかわいいです。

五年生にも「仲良しN小、元気良し！」の伝統を、絶対に受けついでもらいたいと思います。

(児童作文)

話し合ってみよう

胸を張れる校風

先輩たちから伝わってきたことがある。私たちはそれを受けつぎ、もっと良いものにして後輩たちにも伝える。

● 自分の学校の「校歌」や「校章」にはどのような意味や願いがあるのかを調べてみましょう。

● 自分の学校をより良くしていくために、あなたにできること、やってみたいことを書きましょう。

5年

6年